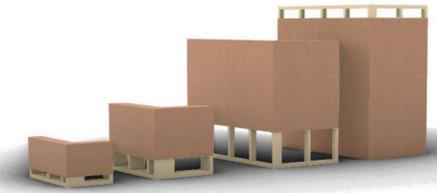


# ふれあいを生み出す「かぎかっこ」



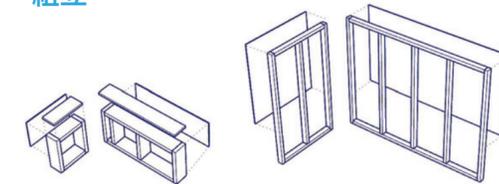
市民と専門家とのふれあいを誘発する、かぎかっこの什器を提案します。「」は、目線の高さ程で、自分が座ったり、立ったりすることで、消えたり現れたりします。完全には閉じず、ゆるく空間を分けて、回遊しながら多くの動線を作ります。時には展示台となり、ベンチとなり、倉庫の壁となったりします。様々な居場所が発生し、空間を巡りながら、建築ふれあいフェアを楽しむことができます。

## 什器デザイン



大小4つのサイズのL型什器を会場に配置します。天井が低い地下空間に対して、なるべく高さを抑え、展示什器は最高でもH=1400に抑えています。(倉庫目隠し什器はH=1800) また、人の気配や、視線の抜けを考慮して、面材は足元や上部を開けています。

## 組立



木造住宅で見られるような、面材と軸組から構成する什器です。軸組はSPF、面材はラワン合板 t5.5とし、安価で軽い材料としています。基本的にビス止めとし、L型はそれぞれ2つに分解でき、保管の面に考慮しました。

## ジョイント



L型部分のジョイントは、木栓で止め、簡単に取り外せ、持ち運べるようにしています。径を統一し、全ての什器に対応することで、組立を簡略化することを考えました。



メインゲートから、相談・展示ブースをみる

## 変化に富んだ会場

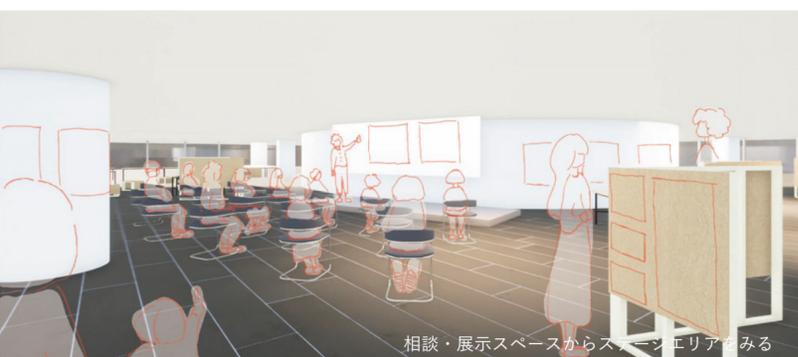
「」を点在させることで、様々なシーケンスを作り出し、回遊する楽しさを見出します。



ステージエリアからベンチスペースをみる

## 公園のような伸びやかさ

ランダムな什器・家具配置とすることで、人々が思い思いに過ごせる公園のような空間となります。



相談・展示スペースからステージエリアをみる

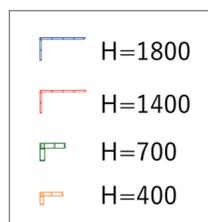
## 垣間見える賑わい

ステージエリアは、メインゲートからも確認できる位置とし、賑わいを演出します。

## 空間を緩やかに分け、点在する「」

- 主にH=1400の「」でエリアを分節し、奥への見通しを確保します。座った時には目隠しとなり、立つと全体を見渡せます。
- 体験エリアはH=700の「」を配置し、遠くの場所からも体験している様子を伺えます。また、展示台としても機能します。
- 配置は、従来の建築フェアの配置を基本とし、メインゲートから、体験エリアと相談・展示ブースエリアへと、回遊する動線を2つに分けることで、目的がある人の動線を分けます。
- コロナウイルス対策として、ステージエリアは、客席を約半数としています。また、「」は空間を完全には閉じずに、配置します。
- 会場の各所にH=400の「」を設けて、気軽に休憩できる居場所をつくります。公園のポールに腰掛けるような、ラフなベンチとしています。

材料  
面材：ラワン合板 t5.5  
軸組：SPF材  
H=1800 38×63  
H=1400 38×63  
H=700 38×184  
H=400 38×140



配置平面図 S=1:200

